

2019年度活動実績報告

1. 「2019年度事業実績報告」概要版（理事会報告）

2019 年度学校法人山陽学園事業の実績について

1. 学生・生徒・園児の入学及び在籍状況

(1) 入学者数

(2019年5月1日現在)

設 置 学 校	入学定員(人)	入学者数(人)	充足率(%)
山陽学園大学 大学院看護学研究科	6	2	33
山陽学園大学 総合人間学部言語文化学科	30	41	137
〃 生活心理学科	30	35	117
地域マネジメント学部地域マネジメント学科	60	41	68
看護学部看護学科	80	84	105
助産学専攻科	10	7	70
大 学 計	210	208	99
山陽学園短期大学 食物栄養学科	80	58	73
幼児教育学科	100	71	71
短 期 大 学 計	180	129	72
山陽女子高等学校	200	175	86
山陽女子中学校	70	52	74
附属幼稚園	40	40	100

(2) 在籍者数

(2019年5月1日現在)

設 置 学 校	収容定員(人)	在籍者数(人)	充足率(%)
山陽学園大学 大学院看護学研究科	12	7	58
山陽学園大学 総合人間学部言語文化学科	220	170	77
〃 生活心理学科	220	135	61
地域マネジメント学部地域マネジメント学科	120	81	68
看護学部看護学科	320	317	99
助産学専攻科	10	7	70
大 学 計	830	710	86
山陽学園短期大学 食物栄養学科	160	96	60
幼児教育学科	200	135	68
短 期 大 学 計	360	231	64
山陽女子高等学校	600	515	86
山陽女子中学校	210	174	83
附属幼稚園	120	124	103

2. 諸活動

(1) オープンキャンパス・オープンスクールの状況

① 大学・短期大学

開催日	参加者(名)	保護者(名)
6月22日(土)	266	117
7月15日(祝)	328	129
8月24日(土)	212	106
9月21日(土)	171	65
2月13日(木)	30	7
3月20日(祝)	中止	
計	1,007	424

3月20日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

② 高校

開催日	参加者(名)	保護者(名)
山陽フェスティバル : 6月6日(土)	67	50
第1回オープンスクール : 7月28日(日)	582	225
山陽オープン模試 : 10月27日(日)	591	
第2回オープンスクール : 11月9日(土)	450	153
計	1,690	428

③ 中学

開催日	参加者(名)	保護者(名)
山陽フェスティバル : 6月6日(土)	85	99
第1回オープンスクール : 7月28日(日)	127	155
山陽オープン模試 : 10月6日(日)	292	
第2回オープンスクール : 11月9日(土)	172	214
	676	468

3. 事業実績

【山陽学園大学大学院・山陽学園大学・山陽学園短期大学・山陽学園短期大学附属幼稚園】

2019年度においては、本学の教育理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、教育、研究、地域連携活動を柱として諸活動を展開した。

1 教育活動

(1) 教育方針

個々の学生に応じたきめ細やかな支援を行いながら、学生の向学心意欲を喚起し、より高く幅広い知識や技能を修得させるとともに、コミュニケーション能力を身に付ける教育を実践し、学生の満足度を高める教育に努めた。

(2) 教育活動

大学・大学院 717 名、短期大学 231 名の計 948 名の在學生(2019 年 5 月 1 日現在)に対して各学部学科の特性を活かして、多岐にわたる教育活動を行った。

①大学院

- ・ 看護学研究科では、看護学の動向や最新情報を取得するため学会に参加し、院生 1 名、教員 8 名が学会発表を行うとともに、学内では、種々の領域が共同・協力した研究活動に取り組んだ。

②大学

- ・ 総合人間学部言語文化学科では、海外科目の履修と助成金の活用を奨励し、33 名が韓国、イギリス、ニュージーランド、オーストラリアでの実習や留学等に参加するとともに、検定受験を奨励し、英語に加えてハングルの受験者が増加した。また、2021 年度実施に向けた観光関連科目の新設等の検討を行った。
- ・ 生活心理学科では、基礎学力向上プログラムを実施し初年度教育の充実を図り、専門教育への円滑な移行と学修の効率化につなげるとともに、就職支援科目等の受講を促し、社会人としての意識を持たせ、社会人基礎力の向上を図った。また、地域連携事業（笠岡市大島地区）や子育て支援活動（平井地区）等に参加し、地域社会に貢献する意識を涵養した。
- ・ 地域マネジメント学部では、教室で学んだ基礎知識をもとに、1 年次では大学近隣の学外に出て地域を知り、理解する力を身につけるとともに、2 年次は真庭市、和気町に出かけ、同様の学習を行い、基礎力の充実を図った。また、3 年次からの地域マネジメント実習の円滑な実施に向け、実習先への説明等の準備を進めた。
- ・ 看護学部では、入学前教育や初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行を図るとともに、国家試験合格率 100%を達成するため、計画的な試験な対策に取り組んだが、看護師は 87.8%、保健師は 94.1%であった。
- ・ 助産学専攻科では、専門性と人間性を高める教育を通して、周産期医療に関する幅広い知識と豊かな教養を備えた人材を育成するとともに、助産師国家試験では、4 年連続 100%合格を達成した。

③短期大学

- ・ 食物栄養学科では、学生が主体の学びとなるように専門演習に学修指導とアクティブラーニングを積極的に取り入れた。また、2020 年度入学生に向け、給食管理や栄養指導の知識と技能およびこれらを統合した実践力の育成を図るため、「栄養学教育モデルコアカリキュラム」に沿って、カリキュラムを一部改正した。
- ・ 幼児教育学科では、保育者に必要なピアノ演奏能力修得のため、昨年度に引き続き、自主練習を行う補習時間を設定した。また、「子育て支援実習」を時間割の中に組み込み、附属幼稚園へのボランティアに参加しやすいシステムにした。

2 学生募集活動の強化

- ・ 教職員に事前研修を実施して目的と必要性を共有化するとともに、説明内容の平準化を図り、本学の“強み”を共通認識して募集活動を展開した。
- ・ 開設 2 年目の地域マネジメント学部、新たに開設する短大 3 年コースなど本学のポジティブな取組を積極的にアピールし、本学のイメージアップを図ったことにより、大学の志願者の増加につながった。

- ・ 地域マネジメント学部では、高校生を対象とした地域マネジメントコンテストを実施し、地域活動の重要性や本学部の内容をアピールした。
- ・ オープンキャンパスへの参加者数は増加傾向にあり、学生を前面に活用しての運営工夫等によりアンケートでも好評価が多く見られるようになった。
- ・ 社会人学生の入学を促進するため、卒業生等を対象とした生涯学習に関するリーフレット「学びの概要」を作成し、PRに努めた。
- ・ 高校生に加えて幅広い層に向け、TV、新聞、ホームページに加え、SNSも活用して集中的に広告を発信し、楽しく印象に残る内容となるよう努めた。また、Webバナー広告の内容及び配信地域を見直し実施した結果、配信時のHPアクセス数が通常の20倍近くになった。
- ・ 聴講生の受け入れに関しては、説明会を開催し、開講科目の情報提供を行った。
- ・ 令和2年度入学生は、大学、短大、大学院合わせて353人となり、大学は概ね定員を確保し、短大は定員充足には至らなかったが、前年度を上回る80.0%の充足率となった。

◇令和2年度入学者の状況

	学部・学科		定員	入学者数	充足率(%)
大学	総合人間学部	言語文化学科	30	43	143.3
		生活心理学科	30	32	106.7
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	60	43	71.7
	看護学部	看護学科	80	80	100.0
	計		200	198	99.0
	助産学専攻科		10	9	90.0
大学院	看護研究科		6	2	33.3
短期 大学	健康栄養学科		80	63	78.8
	こども育成学科		100	81	81.0
	計		180	144	80.0
合計			396	353	89.1

3 研究活動の活性化

地域ニーズに基づく研究活動、学内競争的研究費の配分及び競争的外部資金獲得を中心的に活動を行った。

- ① 研究成果を積極的に公開するため、37名の教員が論文発表86件、学会発表66回の計152回の発表を行った。
- ② 学内競争的研究費の配分については、教育改革公募研究支援経費（1件200千円）として4件、学内研究補助金（1件300千円）として21件、計7,100千円の配分を全学的に行った。これらの研究成果報告書の取りまとめは、山陽論叢に掲載するなど公開を進めている。
- ③ 競争的外部資金獲得については、科研費を9件8,156千円の補助金を獲得した。また、平成27年度から引き続いて教学事項の見直しを実施しつつ、「私立大学等改革総合支援事業」の申請を行い、タイプ1の「教育の質的転換」（14,400千円）に採択され、教室の視聴覚機器などの整備を行った。

4 学修支援の強化

(1) 学修支援の強化

退学が懸念される学生について、教授会でも対応策を協議し、アドバイザーやクラス顧問が根気強く指導にあたり、一人ひとりへの丁寧な対応に努め、修学意欲の維持・向上等を図ったが、948名の在学生のうち、33名が退学あるいは除籍となった。

退学の主な理由は、精神的・身体的理由、経済的理由、進路変更などであった。

◇退学・除籍者数

	学部・学科		現員数	退学・除籍者	率
大学	総合人間学部	言語文化学科	170	13	7.6%
		生活心理学科	135	6	4.4%
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	81	3	3.7%
	看護学部	看護学科	317	5	1.6%
	助産学専攻科		7	0	0.0%
大学院	看護研究科		7	0	0.0%
短期 大学	食物栄養学科		96	3	3.1%
	幼児教育学科		135	3	2.2%
計			948	33	3.5%

(2) 生活（キャンパスライフ）支援の充実

- ① 外国人留学生に対して、入学時のオリエンテーション、資格外活動に関する指導、ビザ申請、住宅斡旋、事故対応など、多岐にわたる相談に対して、適切な指導を行うとともに、卒業後の進路指導、就職活動の情報提供も実施した。
- ② 学生サークル活動の文化系・体育系団体数は、昨年度と同数（36団体）であったが、部員数は170名以上の増となり、大学・短大の活力創出につながった。
- ③ 「障がい学生支援のガイドライン」を改訂し、各学科との役割を明確化するとともに、FD/S D研修において、教職員に改訂内容等の周知を図った。

(3) 就職支援の強化

- ① 就職率の向上のため、キャリアセンターと学科アドバイザー等との緊密な連携を図りながら学生一人ひとりが自信を持って就職活動を行い、納得のいく就職を決めることができるよう就職支援を行い、全学科で就職率 100%を達成した。

◇学科別就職率（2020年5月1日現在）

	大 学			短 期 大 学	
	総合人間学部		看護学部	食物栄養 学科	幼児教育 学科
	言語文化学科	生活心理学科	看護学科		
就職率	100%	100%	100%	100%	100%

- ② 早い時期から就職意識を醸成するため、保護者や在学生を対象にした「就職懇談会」や「卒業生による業界説明会」、また専門職を対象にした「保育士合同面談会」、「栄養士等業界説明会」等の就職支援活動を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症予防のため、2021年3月卒業者向けの「就職支援バスの運行」と「実習病院就職説明会」の開催は中止した。

◇参加者数

就職懇談会(保護者)	61人	保育士合同面談会	113人
卒業生による業界説明会	38人	栄養士等業界説明会	56人
就職支援バス	中止	実習病院就職説明会	中止

- ③ 「社会人入門」、「インターンシップ」、また県内優良企業と連携した「企業協働型ラーニング」を開講し、就職支援科目の充実を図った。
- ④ 就職先企業を中心に企業訪問し、情報交換を行うとともに、卒業後1年を経過した卒業生及び就職先企業に対するアンケート調査を実施し、卒業生のフォローアップと企業との関係強化に努めた。

5 地域連携の推進

(1) 公開講座等の拡充

各学科の専門的知見を地域社会に還元するため、前期3回、後期2回の公開講座(184人)と、1回の公開講演会(150人)を実施した。また、公開講座前期・後期各7,000枚、公開講演会4,000枚のチラシを配布し、本学園の広報に努めた。

(2) 地域との連携事業の推進

地元「平井学区地域づくり会議」をはじめ、連携協定を締結している関係自治体等と積極的に連携し、38件の連携事業を行った。

(3) ボランティア活動の推進

学生に対して、学科を通してボランティア情報を提供するとともに、ポスターの掲示などにより学生に周知した。また、ボランティア登録をしている学生には、個別にボランティアの依頼を行い、ボランティアへの積極的参加を働きかけた。

学生の自主的な活動をはじめ、学友会・部長会・サークルとしての取組などで延べ622人が

参加した。

6 施設整備

- ① 学生が快適に学修できるよう、パソコン教室の更新、映像・音響設備の更新を行った。
- ② 建物の耐震化、バリアフリー化について総合的な観点から検討を進めた。

7 大学運営の強化

(1) ガバナンスの強化

- ① 合同会議を月2回開催し、学内情報の共有と教授会等の各種会議体や事務局各部署との連携を図り、柔軟で迅速なガバナンスを確立するとともに、大学運営の改革改善の推進に努めた。教授会議、学科会議、各ワーキンググループ会議等においても、決定事項を組織内で共有し、その実現のために、それぞれの構成員が役割を果たした。
- ② 自然災害等の不測の事態に迅速かつ適確に対応するため、危機管理規程を改正するとともにリスクマネジメントガイドラインを制定し、危機管理委員会の設置や緊急連絡体制の構築など体制の強化を図った。また、消防訓練を実施し、学生および教職員の防災意識を高めた。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、危機管理委員会を開催し、迅速かつ適切な対応に努めた。

(2) 広報活動の強化

- ① HPへの訪問者数を増やすため、教員リレーコラム、活動紹介ページ等の掲載を行った。
・2019年度アクセス数 346,775件（対前年度比 +72,167件）
- ② 山陽スピリット推進室を中心に、山陽学園大学、短期大学に所属するすべての学生・教職員の帰属意識を高めるとともに、「愛と奉仕」の精神に基づく教育を実践していることを学内に徹底し、マスコミ等を通じて学外に向けて広報した。

(3) 教職員の資質向上

- ① 全ての教職員は様々な機会（ティーチング・ポートフォリオの活用を含む）を活用して自己研鑽に努めた。
- ② 教職員の資質向上と適正な業務執行体制を確立するため、FD（Faculty Development 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み）、SD（Staff Development 事務職員の資質向上のための取り組み）を6回実施した。

8 山陽学園短期大学附属幼稚園

- ・ 大学キャンパス内の散策や親子遠足や園外保育でも、自然の中の遊び、山登りなど幅広い自然体験を通して、心動かしながら家族以外の人とのかかわりを通して、心身ともに成長することができた。
- ・ 大学の先生から教わる英語教育での経験を、日ごろの生活に取り入れるなど、大学や地域との連携により、自立に向かう必要な経験や様々な活動への興味・関心を広げることができた。

◎数値目標達成状況（2019年度）

【定員の確保】				
1	2020年度の入学定員を100%確保する。	大学(2020年入学)	99.0%	[100.5%]
		短大(2020年入学)	80.0%	[71.7%]
2	志願者数の合計を10%増やす。	(2020年入学)対前年度比	115%	[117.8%]
			689人	[602人]
3	志願度の高い特推、一推、AO入試による入学者を250人以上確保する。	(2020年入学)	258人	[248人]
4	山陽女子高からの入学者を50人以上確保する。	(2020年入学)	37人	[43人]
【教育の充実】				
5	中途退学者・除籍者の割合を3.0%以下にする。		3.5%	[3.1%]
6	全学生のGPA平均値を2.4ポイント以上とする。	(前期)	2.4	[2.4]
	※GPA値=(授業科目の単位数×授業科目の評価点)÷授業科目の単位数	(後期)	2.3	[2.3]
7	学生による授業評価が3.9ポイント以上の授業の割合を90%以上とする。(専任教員の授業)	(前期)	81.5%	[94.5%]
		(後期)	88.3%	[84.7%]
8	学修成果発表の機会を各学科で2回以上設定する。		66.7%	[66.7%]
9	アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が80%以上になるようにする。		48.0%	[57.2%]
【資格取得の推進】				
10	看護師国家試験の合格率100%を達成する。		87.8%	[90.8%]
11	保健師国家試験の合格率100%を達成する。		94.1%	[35.3%]
12	助産師国家試験の合格率100%を達成する。		100.0%	[100.0%]
【希望する就職の実現】				
13	全ての学科で就職率を100%にする。(言語、生活、看護、食栄、幼教)		100.0%	[100.0%]
14	専門職への就職率を80%以上にする。[食栄]		82.9%	[76.1%]
	専門職への就職率を95%以上にする。[幼教]		92.5%	[82.4%]
【研究活動の活性化】				
15	外部資金(科研費等)を15件以上獲得する。		9件	[9件]
			8,150千円	[7,467千円]
16	全ての教員が論文等の発表1件以上又は学会発表1回以上を行う。		47.4%	[59.5%]
			37人	[47人]
【地域連携・地域貢献の推進】				
17	大学・短大が主催(共催)する地域との連携事業を30件以上実施する。		38件	[45件]
18	学生のボランティア参加人数を延べ300人以上とする。		622人	[516人]
【その他】				
19	パブリシティによる情報発信を年間150件以上行う。		138件	[149件]
20	図書貸出冊数を学生一人当たり15冊以上とする。		8.5冊	[12.1冊]

※ [] は、2018年度実績